

1月11日 (日) 出エジ プト記 23章	「あなたは根拠のないわさを流してはならない」(1節)「あなたは多数者に追随して、悪を行ってはならない」(2節)。根拠のないわさを面白がり、他者に流す。多数者の言葉に安易に追随する。何千年も前から人間は変わらない。私たちの心はなんと浮ついていることだろうか。「恵みと真理とに満ちた方」(ヨハネ 1:14)にしっかりと根を張った生き方をしたい。
12日 (月) 出エジ プト記 24章	「民は皆、声を一つにして答え、『わたしたちは、主が語られた言葉をすべて行います』と言った」(3節)。エジプトの支配から解放されたのに「飲み水がない、食べ物がない」と毎日不平不満をもらす不信仰な民と、主は「契約」を結ばれた。それは「わたしの恵みの中を歩みなさい」という「恵みの契約」。この主の恵みの先立ちに信頼する信仰を今日いただきたい。
13日 (火) 出エジ プト記 25章	「わたしのために聖なる所を彼らに造らせなさい。わたしは彼らの中に住むであろう」(8節)。主は昼は雲の柱をもって導き、夜は火の柱をもって民を照らし荒れ野の旅を守られた(13:21)。「主に住んでいただくための聖なる所を造る」とは、人々が日々「先立つ主の恵みに応える信仰を生きる」ということだろう。私たちも今日それぞれの「聖なる所」を整えたい。
14日 (水) 出エジ プト記 26章	「その垂れ幕の奥に掟の箱を置く。この垂れ幕はあなたたちに対して聖所と至聖所を分けるものとなる」(33節)。至聖所に掟の箱が安置された際、聖所との仕切りに降ろされた「垂れ幕」こそ、十字架の主の死において上から真つ二つに裂けた「垂れ幕」である。「主は我らと共にいます」という信仰に生きたとき、この「垂れ幕」の緊張を忘れないようにしたい。

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

15日 (木)	「常夜灯は臨在の幕屋にある掟の箱を隔てる垂れ幕の手前に置き、アロンとその子らが、主の御前に、夕暮れから夜明けまで守る。」(21節)。どんなに暗く厳しい夜も「火の柱」が
出エジ プト記 27章	荒れ野を旅する民を照らして守ってくださった。その主の恵みを覚えて、祭司たちは「常夜灯」を灯して聖所を守る。私たちはこの「共なる主の恵み」にどのような祈りで応えていくのか。
16日 (金)	「それぞれの宝石には、十二部族に従ってそれぞれの名が印章に彫るように彫りつけられている」(21節)。大祭司は十二部族の名が彫られた宝石を織り込んだ胸当てを着けて主の御前に立った。それは「あなたたちは…わたしの宝となる」
出エジ プト記 28章	(19:5)という主の御言葉を生きるため。わたしも主から「わたしの宝」と呼ばれている幸いと責任を覚えて一日を始めたい。
17日 (土)	「アロンとその子らは手を雄牛の頭に置く。あなたはそれを主の御前、臨在の幕屋の入り口で屠る」(10－11節)。祭司は任職にあたり、屠られる雄牛の血を身に浴びる。ひと言で
出エジ プト記 29章	言えば「屠られる雄牛と一つになれ」ということだろうか。祭司は、人々の祈り、叫び、呻きのすべてを負って主の御前に入る。「あなたがたは祭司」(Ⅰペトロ2:9)の職務の重さを思う。
18日 (日)	「その一部を細かく砕いて粉末にし、粉末の一部を、臨在の幕屋の中の掟の箱の前に置く。わたしはそこであなたに会う」(36節)。主がモーセに会うと言われた臨在の幕屋に入る
出エジ プト記 30章	には条件があった。水で手足を洗い清める。聖別の油で臨在の幕屋の中のものを聖別する。聖なる香料を掟の箱の前に置くなど。これらが整ったところで主はモーセたちと会われた。